

平成 29 年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成 29 年 12 月 14 日 (木) 13:30~17:15
2. 場 所 : TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口 ホール 7B
3. 出席者 : 藤田委員長、石田委員、沖野委員、奥野委員、駒田委員、西條委員、辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員、山村委員
4. 議 事
 - (1) ダム等の定期報告
 - 1) 蓮ダム
 - 2) 寒狭川堰
 - 3) 横山ダム
 - 4) 徳山ダム
 - (2) 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する報告
 - (3) 平成 28 年度 年次報告及び平成 29 年の出来事
 - (4) 審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 蓮ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた蓮ダムの定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、蓮ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、蓮ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・事前放流を実施する場合には、下流地域住民やマスコミ等へ啓発するとともに、安全に留意して実施すること。

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・なし

v) 生 物

- ・植物調査（特に、木本類）において経年比較する際に、全体の確認種数だけではなく、調査地区毎の評価指標を用いて整理を行うこと。
- ・外来魚オオクチバス等の対策を具体的に示すこと。
- ・p 86の図から土砂還元と糸状藻類の生育値の関係は把握できにくいので、評価の記述を検討してほしい。今後、土砂還元による付着藻類への効果については、面的に把握できるよう考慮すること。

vi) 水源地域動態

- ・水源地域動態の評価について、ホテル（スメール）の入込客数が減少しているのも直ちに貢献しているとは評価できないのではないかと。10年前に比べて落ち込んでいるので、表現を工夫すべきである。蓮ダム周辺全体の入込客数等のデータを踏まえて評価を行うこと。

- 定期報告書（案）については、委員からの意見等を、その提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させることで了承する。

2) 寒狭川堰 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた寒狭川堰の定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、寒狭川堰は、流況改善について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、寒狭川堰については、適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 事業概要

- ・なし

ii) 流況改善

- ・なし

iii) 水質

- ・なし

iv). 生物

- ・魚類の個体数の変動については、調査方法(採集方法)にそれぞれ特性があるので、採集方法ごとに個体数を細かく分析すれば、傾向が見えてくると思われる。これらの分析については、既往のデータを含めて分析し、他の要因を含めて年変動の評価を行ったほうがよい。
- ・カワヒバリガイは特定外来生物のため、拡散しないための対策が必要となる。また、カワヒバリガイについて、導水路の調査を行った結果、確認されていないのであれば、その旨を評価に記載したほうがよい。

- 定期報告書(案)については、委員からの意見等を、その提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させることで了承する。

3) 横山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた横山ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、横山ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、横山ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・平成 24、25 年のクロロフィル a の最大値が大きい。種組成では緑藻と渦鞭毛藻の優占度が高くなっているため、優占種との関連性等について、今後詳しく分析を行って評価すると良い。その上で、検証結果と評価の記述を検討してほしい。

v) 生 物

- ・ムカシトンボ等については近年みられていない、一方、都市部にみられるコシアキトンボが近年みられるようになっているので、確認状況について丁寧に記述してほしい。
- ・横山ダム運用変更前後の水位変動域について比較できるように整理した上で、生態系の変化について分析評価をすると良い。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書(案)については、委員からの意見等を、その提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させることで了承する。

4) 徳山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた徳山ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、徳山ダムは治水・利水(流水の正常な機能の維持)について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、徳山ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・弾力的な運用の試行を引き続き実施していくことを今後の課題に記載すること。
- ・近年の気候変動の中で、防災・減災の観点から渇水対策は極めて重要である。
- ・渇水時に木曾川・長良川に正常流量のための補給を仮想した場合の評価を今後取り組んでいただきたい。

iii) 堆 砂

- ・なし

iv) 水 質

- ・徳山ダムの放流濁度は流入濁度と同程度かそれ以下であることをデータからわかりやすく示すこと。
- ・将来の利水に対して良好な水質が確保されるよう、汚染事故防止対策など適切な管理について更なる検討をお願いする。

v) 生 物

- ・湿性地のミティゲーション箇所についてモニタリングを実施し、保全すること。
- ・大規模な貯水池が出現したことに伴う生物相の変遷について、長期的な視点で把握・評価することが望ましい。
- ・水質及び生物のうち横山ダムと徳山ダムとで関連性の高い項目について、両ダムで検討した方がよい。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書（案）については、委員からの意見等をその提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させることで了承する。

(2) その他報告

長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する報告、平成28年度の年次報告の概要についての説明、及び、平成29年のダム等の管理に関わる主な出来事についての報告があった。